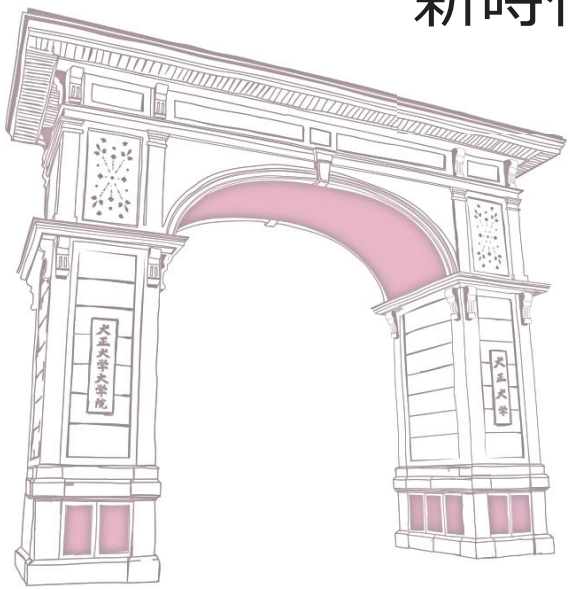
大正大学
スガモで育む日本の未来。



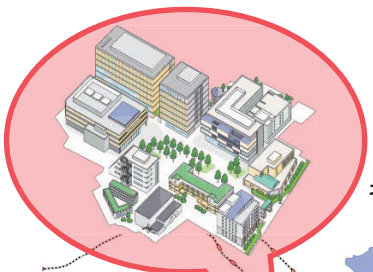
新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業

「知識集約型社会を支える人材育成事業」
メニューI・メニューII採択校シンポジウム

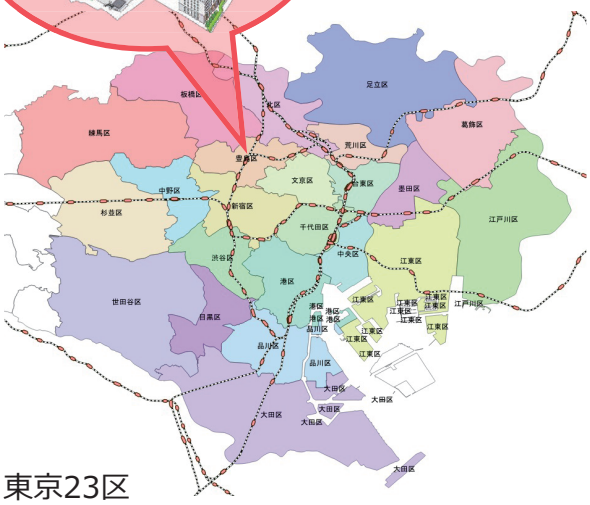
大正大学　副学長　神達知純

令和３年６月３日

INNOVATE! 大正大学100周年に向けての“超”改革



巣鴨キャンパス



東京23区

大正大学

学生数：4,808名
男子：2,352名
女子：2,456名

専任教員数：159名
専任職員数：158名

※令和３年5月1日現在

大正大学
スガモで育む日本の未来。

大正大学の6学部・3研究科

仏教学部

社会共生学部

心理社会学部

文学部

表現学部

地域創生学部

仏教学研究科　人間学研究科　文学研究科

大正大学
スガモで育む日本の未来。

INNOVATE 5

大正大学 改革実現のための5つの宣言

01 「新共生主義」の確立

02 「地域人スピリット」の醸成

03 アントレプレナーシップの養成

04 「DAC」による総合学修支援

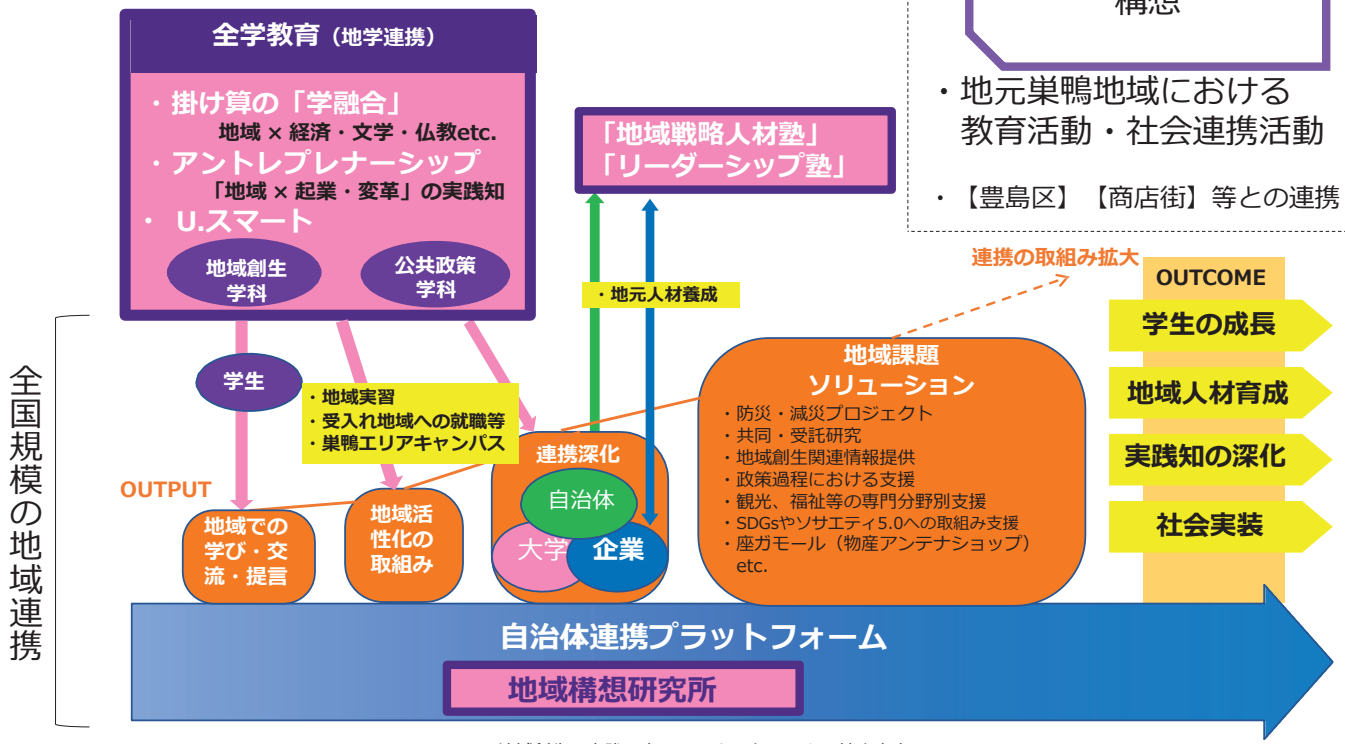
05 「すがもオールキャンパス」構想

地方自治体と大正大学の連携の有機的展開

すがも
オールキャンパス
構想

・地元巣鴨地域における
教育活動・社会連携活動

・【豊島区】【商店街】等との連携



大正大学
スガモで育む日本の未来。

【研究所活動】・地域創生の実践研究　・ネットワークの拡大充実
・月刊「地域人」での情報発信

新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業

地域戦略人材とは

多面的な性質をもつ地域の課題解決に向けて異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整する新しいリーダー
・幅広い文理横断の知識や創造力
・変化に対応する力
・異なる分野のネットワーク結節点となるためのコミュニケーション力 等

必要となる改革の方向性

✓ 本学第３次マスタープラン・INNOVATE５・MIG s 2026を踏まえた人材育成
✓ 超スマート社会の中で地域を支え、活躍する人材を育成する教育プログラム構築
✓ 全学横断的な教育改革の実現に向けた組織改革、教職協働体制の確立
✓ 目指す人材像の育成に向けた地域・社会とのインタラクション強化

【事業方針】
- **地学連携・産学協創による新しい教育プログラムの実現**
- **学内第３のマネジメント組織＝総合学修支援機構DACを司令塔とする全学横断的な教育改革の実現、ガバナンス強化**
- **生涯を通じた学びの体制構築による人材の好循環促進、社会とのインタラクション強化**

事業概要

クロスディシプリン教育ラボラトリー
学部学科
学部・学科の枠を超えた教育活動の活性化
データサイエンス教育ラボラトリー
図書館による総合学修支援
生涯を通じて学び続ける体制の構築
教職協働による学内第三の組織＝総合学修支援機構DAC【司令塔】

推進力
第３次マスタープラン
「大正大学100年、魅力化構想とそれを実現するための働き方改革」
INNOVATE５
MIG s 2026

地域・社会とのインタラクション強化

地学連携　地域構想研究所
○ 地域人主義、新共生主義の具体化と地域活性化に貢献する教育プログラム開発
・広域地域自治体連携（全国95）
・公的組織・団体との連携
・地方大学との連携（10）
・地域創生に向けたプロジェクト研究（５）
・地域創生の総合情報誌「地域人」の刊行（通刊60）
・地域活性化に貢献するプログラム開発

産学協創　コミュニケーションプロジェクト研究室
○ Society5.0時代の人材育成に向けた企業との協創プログラム開発（アントレプレナーシップ）
・ソフトバンク（株）との協同開発・研究
・近畿日本ツーリストとの協定
・東武鉄道グループ（長期インターンシップ他）

フィールド学修　第Ⅲ類（キャリア形成）

令和２年度までに取り組んでいる事項（今後も拡大・充実）
・DAC（機構長：学長）の司令塔機能強化、学長補佐の協働による学内組織（教育・研究・地域連携）の連携強化
・大学のビジョン達成に向けたFD・SDの徹底（FD・SD手当の支給）
・教学IR体制の組織・運営強化（エビデンスに基づくプログラム開発）
・DACポートフォリオの開発と活用（学修成果の可視化による育成強化）
・専属チューターによる共通教育の目標達成サポート体制構築
・新教育分野開発のためのラボラトリーの設置
①クロスディシプリン教育ラボ（学融合）
②データサイエンス教育ラボ（文理融合）

教学マネジメント改革
○ 総合政策会議の新設による教職協働体制の構築
○ 教育改革特別委員会（新設）による評価・助言
・教学IRの強化、推進
・TSRマネジメント（本学独自の自己点検システム）
・学外有識者による外部評価委員会の機能拡大（DACと連携）

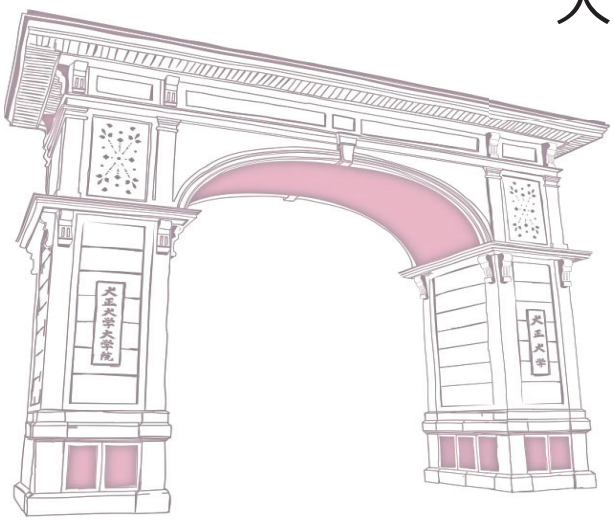
本学が大学全体として目指す教育・教育改革の現状認識と課題
本事業の位置付け

教育改革の現状認識	本事業の位置付け	取り組む課題 何を実現するのか
目指す教育＝多様で複雑な課題を抱えた地域の基盤を担う「地域戦略人材」育成	**◆第３次中期マスタープランに改革方針を明記（全学的改革課題）** Ⓐ改革に向けた行動目標 **：INNOVATE５** Ⓑ中核となる教育改革 **：地域戦略人材の育成**	**「学融合、文理横断の学び」「地学連携／産学連携」の深化と全学展開**
◆改革の現状 **ⓐ地域構想研究所** **ⓑ総合学修支援機構DAC** ・チューターの独自養成・配置 ・学修支援機能をもった図書館 ・社会創造系学部群へのクォーター制導入 ・全学で100分授業を導入	地域人材育成教育を重層的に推進 学融合・文理横断型教育の開発と組織機能一元化の司令塔	**DACを司令塔とする取組の一元化、改革推進体制の構築**
ⓒデータサイエンス教育ラボラトリー **ⓓクロスディシプリン教育ラボラトリー** **ⓔコミュニケーションプロジェクト研究所**	「ラボラトリー」は本事業の牽引力として教育プログラムを開発 設計→実施→分析、評価→改革のプロセスの基礎を担う	**改革実行を担保する教職協働体制、教学ガバナンスの確立**

本事業により育成する人材像・教育体系（イメージ図）

大正大学
スガモで育む日本の未来。

統合型の新教養教育と
一人ひとりの学生を総合的に支援する
チュートリアル教育



INNOVATE! 大正大学100周年に向けての“超”改革

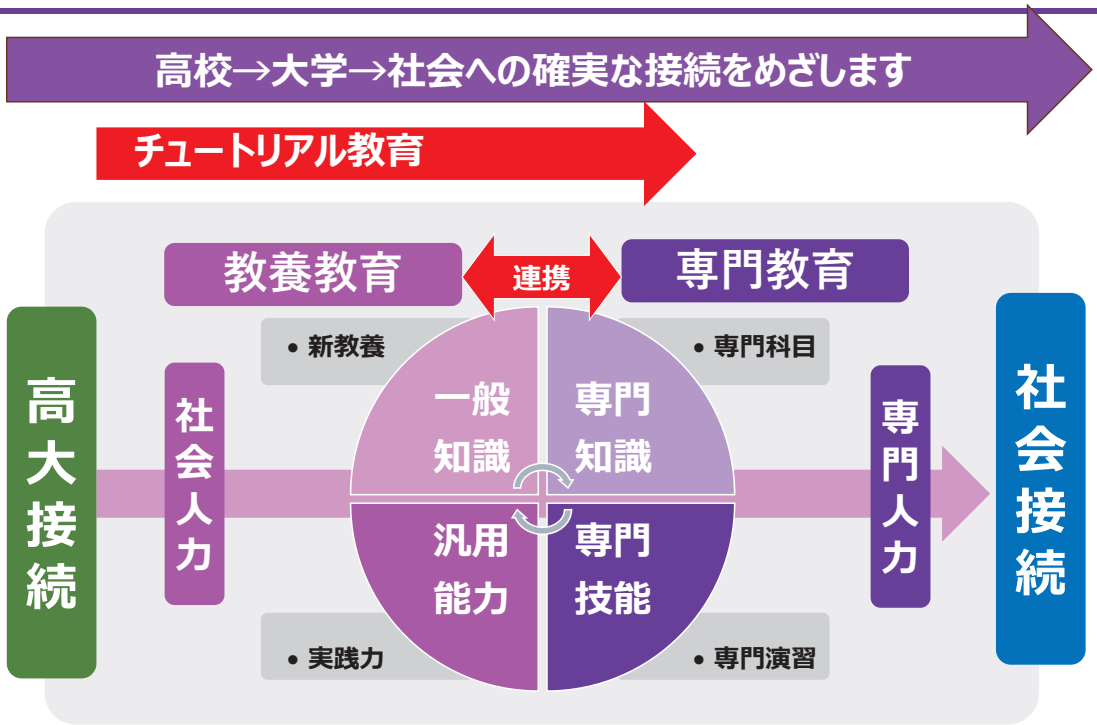
「知識集約型社会を支える人材育成事業」
メニューI・メニューII採択校シンポジウム

大正大学　学長補佐　成田秀夫

令和３年６月３日

1. 統合型の新教養教育―コンセプト―

大正大学
スガモで育む日本の未来。



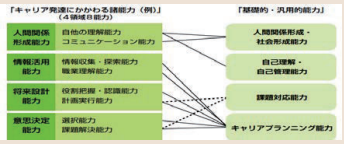
1. 統合型の新教養教育―転換の意義―

大正大学 スガモで育む日本の未来。

【初年次教育】（初年次教育学会）
①学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力をつくる、②高校までの不足分を補習する、③大学という場を理解する、④人としての守るべき規範を理解させる大学の中に人間関係を構築する、⑤レポートの書き方、文献探索方法など、大学で学ぶためのスタディスキルやアカデミックスキルを獲得する、⑥クリティカルシンキング・コミュニケーション力など大学で学ぶための思考方法を身につける、⑦高校までの受動的な学習から、能動的で自立的・自律的な学習態度への転換を図る

【教養教育】（文部科学省）
教養とは，個人が社会とかかわり、経験を積み、体系的な知識や知恵を獲得する過程で身に付ける、ものの見方、考え方、価値観の総体
教養は、知的な側面のみならず、規範意識と倫理性、感性と美意識、主体的に行動する力、バランス感覚、体力や精神力などを含めた総体的な概念
（中央教育審議会答申「新しい時代における教養教育の在り方について(答申)」平成14年2月21日）

【キャリア教育】（文部科学省）
一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育
（「キャリア教育とは何か」）



【従来型の共通教育】
- 教育内容ごとに科目が設定される
- 同一シラバスでも、教材・教育方法は個人任せ

⇒質保証の担保が課題

【DACの共通教育】
- 初年次教育・教養教育・キャリア教育の統合

⇒科目で統合的に実施
- 教員チームによる協働的な授業運営

⇒恒常的な授業改善

【チュートリアル教育】
- 学生の自律的な学びを総合的に支援する

⇒チューターを育成採用
- 学生の学びと成長を支える仕組み

⇒e-ポートフォリオ＋チューター

1. 統合型の新教養教育―教育目標―

大正大学 スガモで育む日本の未来。

◆Ⅰ類で育成する資質・能力

A) 主体的学修態度
B) 知識理解・活用力
C) 表現力
D) 課題探究・解決力
E) 情報・データ活用力
F) 対人力
G) セルフマネジメント
H) チャレンジ精神
I) 地域密着力

◆Ⅰ類の共通教育内容

① 大学教育入門
② 自校教育
③ 主体的学修態度
④ アカデミック・スキル
⑤ 情報・データリテラシー
⑥ ソーシャル・スキル
⑦ 社会生活に必要な知識
⑧ キャリア教育
⑨ メタ認知能力（リフレクション）

1. 統合型の新教養教育―クオーター制と２限連続授業―

大正大学 スガモで育む日本の未来。

- Ⅰ類はクオーター制（1・2・3・4QT）を全学で導入
- 探究科目は1・2・4QTに開講（3QTは地域実習等）
- 100分1コマ、2コマ連続授業

【21年度・開講期間】

1QT	4/15（木） ～ 6/2（水）
2QT	6/3（木） ～ 7/21（水）
3QT	9/2（木） ～ 10/21（木）
4QT	10/22（金） ～ 12/16（木）

時限	時間帯	
1	09:00 ～ 10:40	2コマ連続
休憩	10:40 ～ 10:50	
2	10:50 ～ 12:30	
昼休憩	12:30 ～ 13:20	
3	13:20 ～ 15:00	2コマ連続
休憩	15:00 ～ 15:10	
4	15:10 ～ 16:50	

4

1. 統合型の新教養教育―卒業要件―

大正大学 スガモで育む日本の未来。

- Ⅰ類科目と卒業に必要な単位数

今回の報告

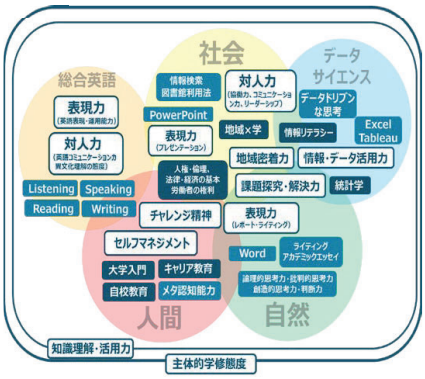
科目		必修／選択	履修学年	履修クォーター 1QT	2QT	3QT	4QT	合計
探究科目	人間の探究	年度を通じて同一科目を必修（「開講科目」参照）	1年	2	2		2	6
	社会の探究		1年	2	2		2	6
	自然の探究		1年	2	2	実習 フィールドワーク PBL	2	6
総合英語		必修	1年	1	1		1	3
データサイエンス（1年次に3単位、2年次に3単位の取得が必要）			1年	1	1		1	3
			2年	1	1		1	3
リーダーシップ			2年	1	1		1	3
Ⅰ類単位数：計30単位				10	10		10	30

5

1. 統合型の新教養教育―統合的なカリキュラム設計―

大正大学 スガモで育む日本の未来。

◆科目と育成目標と教育内容（共通パート）の割り付け



人間の探究	A 主体的学修態度	③ 主体的学修態度(時間管理、学習習慣、リフレクション、行動改善、知識の統合)
	B 知識理解・活用力	① 大学入門(高校生から大学生へ) ② 自校教育(大正大学入門) ⑤ 情報リテラシー(オンラインツール)
	D 課題探究・解決力	④ アカデミック・スキル(論理的思考力・批判的思考力・創造的思考力・判断力)
	G セルフマネジメント	⑧ キャリア教育(将来の自分、大切にしたい価値観、職業意識の醸成)⇒未来計画書
		⑨ メタ認知能力(学びのPDCA:大学での学修目的、目標→実行→振り返り→改善)
	H チャレンジ精神	⑧ キャリア教育(自分の成長を促す試み)
社会の探究	A 主体的学修態度	③ 主体的学修態度(時間管理、学習習慣、リフレクション、行動改善、知識の統合)
	B 知識理解・活用力	④ アカデミック・スキル(情報検索、図書館利用法) ⑤ 情報リテラシー(Society 5.0、PPT、オンラインツール) ⑦ 社会生活に必要な知識(人権・倫理、法律・経済の基本、労働者の権利)
	C 表現力(プレゼンテーション)	④ アカデミック・スキル(プレゼンテーション)
	D 課題探究・解決力	④ アカデミック・スキル(論理的思考力・批判的思考力・創造的思考力・判断力)
	F 対人力	⑥ ソーシャル・スキル(協働力、コミュニケーション力、リーダーシップ)
	H チャレンジ精神	⑥ ソーシャル・スキル(他者との関わりを促進する試み)
	I 地域密着力	● 地域×学⇒アントレプレナーシップ教育への接続
自然の探究	A 主体的学修態度	③ 主体的学修態度(時間管理、学習習慣、リフレクション、行動改善、知の統合)
	B 知識理解・活用力	④ アカデミック・スキル(論理的思考力・批判的思考力・創造的思考力・判断力)
		⑤ 情報リテラシー(Word・オンラインツール)
	C 表現力(レポートライティング)	④ アカデミック・スキル(ライティング)⇒アカデミック・エッセイ
	D 課題探究・解決力	④ アカデミック・スキル(論理的思考力・批判的思考力・創造的思考力・判断力)

6

1. 統合型の新教養教育―開講科目―

大正大学 スガモで育む日本の未来。

◆人間・社会・自然の探究の概要と開講科目名（各１科目選択）

人間の探究	科目の「テーマ」に即して、人類が蓄積してきた知恵の総体である「文化」について学びながら、世界や日本・地域、そして他者・自己を観る視点を養う。多様なメンバーとの対話を通して、「自分は何者か、そしてどこへ行くのか」を考え、大学での学びや自身の将来に向かっての行動につなげていく。	哲学する人間	社会の探究	科目の「テーマ」に即して、変動の激しい現代社会をさまざまな視点から理解するとともに私たちがどのように生きていくか、多様な他者といかに協働していかに社会を作っていくかを学ぶ。	共生社会	自然の探究	科目の「テーマ」に即して、地球温暖化や異常気象といったマクロレベルから遺伝子改造といったミクロレベルまで「環境」をめぐりさまざまな問題について知り、それらとわたしたちとのかかわりについて深く省みる。	地球サスティナビリティ
		学び方とリベラルアーツ			新共生論			グリーンインフラ論
		グローバル・イシュー			超スマート社会の光と影			
		現代アートの人間学			近代を問い直す			健康・医療・福祉
		文学にみる近代			社会の課題を解決する力			
		歴史する人間			ソーシャルメディアの言語技術			数学と仏教・心
		仏教的生き方について学ぶ						

7

1. 統合型の新教養教育―共通パートと専門パート―

大正大学 スガモで育む日本の未来。

◆共通パートと専門パートのサンドウィッチ構造

◆**共通パート**：人間・社会・自然の共通教育内容（DAC教員/非常勤）

◆**専門パート**：各科目名に関連する専門的な内容（学科教員/非常勤）

自然の探究の例

				1QT				2QT				4QT			
共通パート	1週	1	A	・オリエンテーション ・チームビルディング	1週	1	A	・オリエンテーション ・アカデミックスキル④ （気候変動をテーマに"問題"へのアプローチを考える）	1週	1	A	・オリエンテーション ・アカデミックエッセイ① （執筆要領を知る） ・アカデミックスキル⑥ （創造的思考力について知る）
		2	A	・アカデミックスキル① （思考力の主なタイプを知る）		2	A	・アカデミックスキル⑤ （気候変動をテーマに図表からの情報収集・分析をおこなう）		2	A	・アカデミックスキル⑦ （創造的思考力を養う）
専門パート	2週	3	C		2週	3	C		2週	3	C	
		4	C			4	C			4	C	
	3週	5	C		3週	5	C		3週	5	C	
		6	C			6	C			6	C	
	4週	7	C		4週	7	C		4週	7	C	
		8	C			8	C			8	C	
	5週	9	C		5週	9	C		5週	9	C	
共通パート		10	B	・ライティング基礎① （期末レポート課題提示／コンセプトマップづくりによるレポート・テーマ検討する）		10	B	・ライティング応用① （期末レポート課題提示／コンセプトマップづくりによるレポート・テーマ検討する）		10	B	・アカデミックエッセイ② （学びのふり返りとエッセイのテーマを検討する）
	6週	11	B	・ライティング基礎② （テーマについて調べ・練る）	6週	11	B	・ライティング応答② （テーマについて調べ・練る）	6週	11	B	・アカデミックエッセイ③ （テーマについて調べ・練る）
		12	B	・ライティング基礎③ （テーマを設定しアウトラインを作成する） ・アカデミックスキル② （Wordの基本操作を知る）		12	B	・ライティング応用③ （テーマを設定しアウトラインを作成する）		12	B	・アカデミックエッセイ④ （テーマを設定しアウトラインを作成する）
	7週	13	B	・ライティング基礎④ （ピア・レスポンスを実施する）	7週	13	B	・ライティング応用④ （ピア・レスポンスを実施する）	7週	13	B	・アカデミックエッセイ⑤ （ピア・レスポンスを実施する）
		14	A	・1QTの学びをふり返る ・ライティング基礎⑤ （期末レポートの修正・提出）		14	A	・2QTの学びをふり返る ・ライティング応用⑤ （期末レポートの修正・提出）		14	A	・4QTの学びをふり返る ・アカデミックエッセイ⑥ （エッセイの修正・提出）

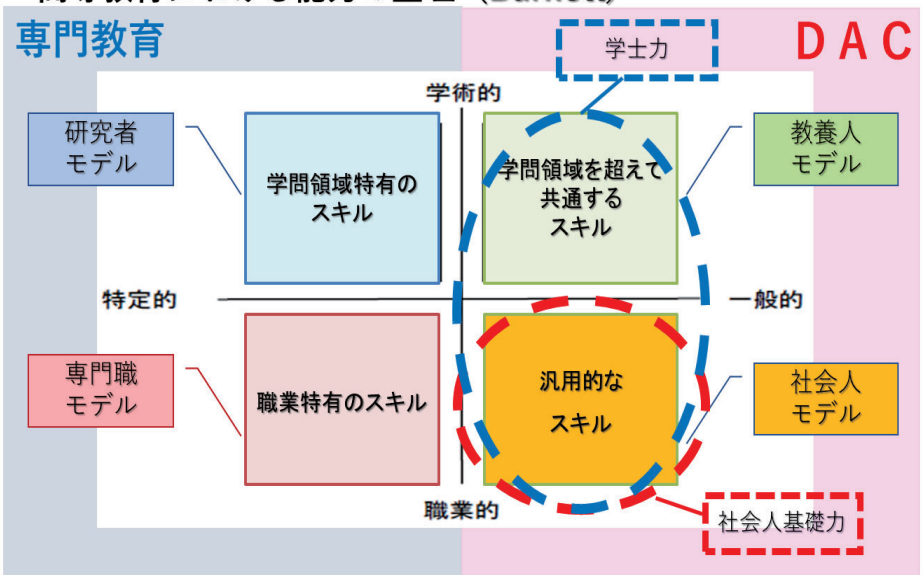
8

1. 統合型の新教養教育―共通パートと専門パート―

大正大学 スガモで育む日本の未来。

◆共通パートと専門パートの役割

■ 高等教育における能力の整理（Barnett）



香川順子、吉川惠子「汎用的スキルに関する概念整理と育成評価方法の探索」を参考に作成。

◆探究科目

◆**共通パート**

◆資質・能力の育成

◆**専門パート**

◆ディシプリンに基づく

ものの見方・考え方

9

1. 統合型の新教養教育―目的別授業タイプ―

大正大学 スガモで育む日本の未来。

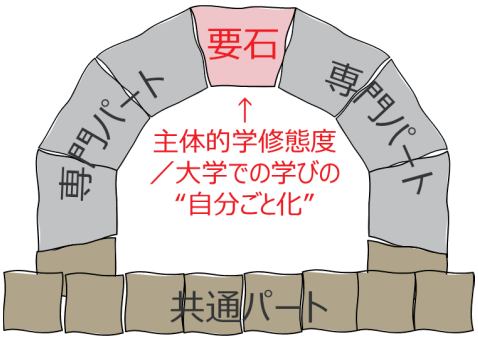
A	資質・能力の育成を優先するタイプ （コンピテンシー強化タイプ）	共通で育成する資質・能力の育成が中心となるタイプ
		DAC教員がメインとなって、専門教員が補助的な立場になる
		DACの教員が授業を進行し、専門教員は学習者の1人として振るまい、例示役として機能する
		☞ 【自己管理力＋キャリア意識＋対人力＋地域密着力】
B	スキルの修得と知識の修得の同時進行タイプ （リテラシー強化タイプ）	DAC教員が育成すべきスキルについて講義し、専門教員が提供する素材をもとにして、知識の理解とスキルの修得を同時に行うタイプ
		授業の前半では、DAC教員が資質・能力について解説し、例題を通して理解を深める
		授業の後半では、専門教員の提供する素材を用いて、資質・能力の育成課題として取り組む
		共通で育成する資質・能力 ☞ 【課題解決力＋チャレンジ精神】
		テーマに関する知識 ☞ 【知識理解力】
C	理解の深化を促すタイプ （理解強化タイプ）	専門教員の提供する素材について、既に学習したスキルをフル活用して、テーマについての理解を深めるタイプ
		専門教員がメインとなって、DAC教員が補助的な立場となる
		☞ 【知識理解力＋課題解決力】
D	学生の活動が中心となるタイプ （主体性強化タイプ）	学生が中心となって課題に取り組み、成果を出すタイプ
		PBL、現地調査やレポート作成、プレゼンテーションの準備など、学生が中心となって活動し、教員・チューターは支援に回る
		☞ 【主体的学習態度、知識理解、自己管理力、対人力、課題解決力、チャレンジ精神、地域密着力】

10

1. 統合型の新教養教育―学びの統合―

大正大学 スガモで育む日本の未来。

- ◆学びの統合を促す仕掛け
  - ◆統合の要石は大学での学びの“自分ごと化”
  - ◆“自分ごと化”を通じて、主体的な学修態度の涵養をめざす
  - ◆「人間」「社会」「自然」の統合に向け、4QTでは、未来計画書、地域×学、アカデミックエッセイという“集大成”となる課題を設定する



11

2. チュートリアル教育―概念―

大正大学 スガモで育む日本の未来。

- ◆チュートリアルについて
  - ◆発祥
    - ◆イギリスの高等教育における学生主体、少人数制の授業形態。
  - ◆現代では
    - ◆IT系では、特定のソフトやハードを初めて使う人向けに、機能や使い方の概要を教える機能を指す。
    - ◆医学教育では、PBL（problem-based learning）などで、少人数グループに対し1名のチューターと呼ばれる教員が付いて行われている。

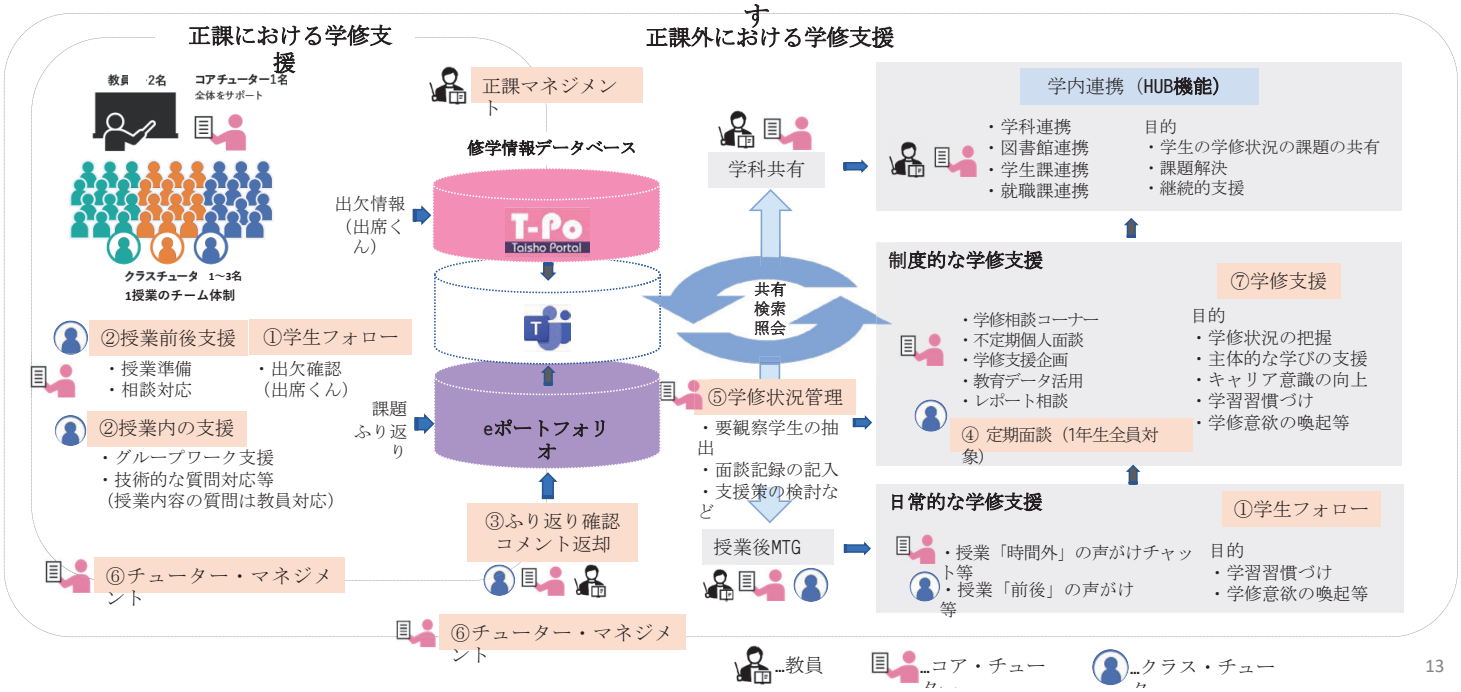
- ◆大正大学のチュートリアル教育
  - ◆学修者の主体的な学びと成長を総合的に支援するための教育体制
  - ◆学修者の状況を把握し、少人数グループやクラス単位で支援する
  - ◆１対1、少人数での学修支援

12

2. チュートリアル教育―全体像―

大正大学 スガモで育む日本の未来。

「一人ひとりの学生」の学びの支援をおこなうことで、「自律した学修者」として成長することを目指す



13

2. チュートリアル教育―チューターの属性―

大正大学 スガモで育む日本の未来。

◆チューターの役割と業務内容

名称	業務内容
コア・チューター	• クラス・チューター業務 • チューターのマネジメント • 学生カルテの管理と報告書の作成 • キャリアカウンセリング・個別面談 etc.
クラス・チューター	• 授業前：教員との打合せ、教材準備 • 授業中：出欠・学修状況の把握、活動支援 • 授業後：授業の振り返り、授業外学修の支援（グループ学修支援、質問対応、提出物管理・採点）etc.
ポートフォリオ・アドバイザー	• 期首：学生の学習計画へのフィードバック • 期中：学生の振り返りへのフィードバック • 期末：学生の学習改善へのフィードバック etc.

14

2. チュートリアル教育―リフレクションの意義―

大正大学 スガモで育む日本の未来。

◆リフレクションを通した自律的学習者としての自己形成

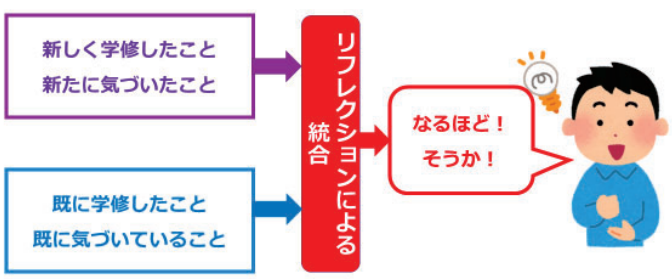
◆授業後にe-ポートフォリオにリフレクションを提出

◆学びや経験をふり返り、学びを統合する

8. まとめとリフレクション

大正大学 スガモで育む日本の未来。

■リフレクションの意義



99

8. まとめとリフレクション

大正大学 スガモで育む日本の未来。

■リフレクション

締め切り　本日23：59

以下の内容について、e-ポートフォリオの「5・6回目のリフレクション」に記入してください。

① あなたにとって「現代社会」のなかで「学ぶ意義」はなにか？
② 「リベラルアーツ」をあなたの言葉で説明すると？
③ 今日の授業で新たな発見はありましたか？
④ その他、自由に。

リフレクションの習慣をつけるため、評価の対象にしますので、必ず記入してください！

101

15

2. チュートリアル教育―成長を促すフィードバック―

大正大学 スガモで育む日本の未来。

◆e-ポートフォリオに提出されたリフレクションへのフィードバック
- ◆チューターのe-ポートフォリオでのフィードバック
- ◆教員による授業内でのフィードバック

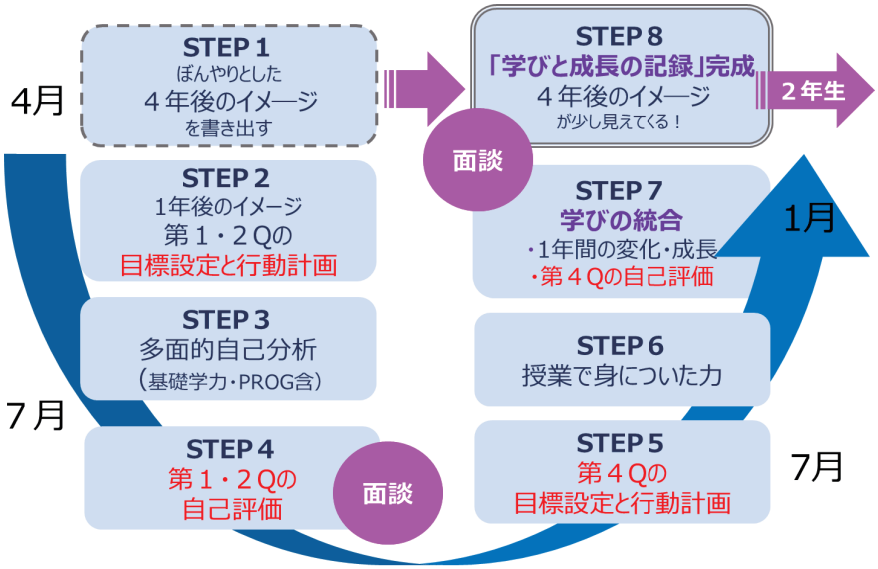
	1 QT	2 QT	4 QT	総計
人間の探究	3,000	3,230	4,652	10,882
社会の探究	3,087	3,971	4,995	12,053
自然の探究	3,396	4,427	5,375	13,198
データサイエンス	3,140	1,585	1,308	6,033
総計	12,623	13,213	16,330	42,166

16

2. チュートリアル教育―学びと成長の記録―

大正大学 スガモで育む日本の未来。

◆人間の探究科目で「学びと成長の記録」を作成
- ◆学びのPDCAと年2回の全員面談



17

2. チュートリアル教育―チュートリアル教育の成果―

大正大学 スガモで育む日本の未来。

◆R２年度単位未修得者数

2015～2019年度入学者の累計（重複者あり）

文化	社会	自然	地域貢献	基礎技法
108人	125人	77人	38人	98人

2020年度探究実証系学部群入学者の累計（重複者あり）※チューターなし

トランジション科目	知の加工術科目	問いの探究科目
46人	115人	66人

2020年度社会創造系学部群入学者の累計（重複者あり）※チューターあり

人間	社会	自然	データサイエンス
10人	9人	14人	2人

2. チュートリアル教育―チューター養成講座―

大正大学 スガモで育む日本の未来。

◆チューターの育成採用＝チューター養成講座

2. チュートリアル教育―チューター養成講座―

大正大学 スガモで育む日本の未来。

◆チューター養成講座：ナレッジ・セッション

高等教育	カリキュラム・授業	学修支援
• 日本の高等教育の現状と現代社会で求められている資質・能力（成田秀夫） • トランジションと高等教育（溝上慎一） • 大学におけるリーダーシップ教育（中原淳） • 高大社連携と地域創生（浦崎太郎）	• ３つのポリシーとカリキュラム改革・カリキュラムマネジメント（佐藤浩章） • カリキュラム・コース・クラスデザイン（成田秀夫） • 教育目標を実現する授業手法（成田秀夫） • アクティブラーニング型授業の手法（竹内幸哉） • 講義型授業の手法（中塚光太朗） • 学修評価の全体像・パフォーマンス評価とルーブリック・ポートフォリオの活用（杉谷祐美子） • ＩＲと教育改善サイクル（福島真司）	• 個別学修支援におけるチューターの視点とスキル（ロードン・パトリック） • グループ学修支援の視点とスキル（堀上晶子） • 学生の学びと成長を支援するキャリアカウンセリング（堀上晶子） • 中退予防のコーディネイション（山本繁） • 教育における障がい者支援（沖倉智美） • 発達障がい者への学修支援（内山登紀夫）

青字＝本学教員

赤字＝学外教員

下線＝Ｗｅｂ収録

20

2. チュートリアル教育―チューター養成講座―

大正大学 スガモで育む日本の未来。

◆チューター養成講座：ナレッジ・セッション

概要	
１．オリエンテーション	
授業内の学修支援	２．個別学修支援におけるチューターの関わり方
	３．グループ活動とファシリテーション
授業外の学修支援	４．ルーブリックによるパフォーマンス評価
	５．目標設定・行動計画・実行に向けた支援
６．リフレクション	
日程	
A日程 ： ９月21日（土） 9:30 ～ 17:30	
B日程 ： ９月22日（日） 9:30 ～ 17:30	
講師	
大正大学 堀上 晶子 ・ 吉次 恵美 ・ ロードン パトリック	

21

大正大学
スガモで育む日本の未来。

◆チューター養成講座：面談トレーニング

1．事前情報の確認
「学びと成長の記録」、出席状況、成績など

2．面談

1．観察	2．聴く 問題・課題	3．深める 本質的な課題	4．決める 行動へ
・第1印象 ・第1声	・学生生活 ・目標、結果・現状 ※事がら+気持ち	・内省 ・フィードバック など	・今後の行動目標 ・行動計画など
信頼関係の構築			
観察・見立て			

3．「学びと成長の記録」記入

4．教員間の共有

✓ **安心して話をしてもらえる、信頼関係を構築する**
- ・学生の適応、成長を信じる関わり
- ・好意的関心、受容、共感的理解

✓ **主体的な学びと成長につなげる**
- ・自分で考えさせる、決めさせる
- ・適切なフィードバックやアドバイス
- ・行動を意識する→PDCAを意識する

✓ **守秘義務について**
- ・基本、知り得た情報を基本的には他言しない
- ・必要に応じて教員間の共有は可能
（学びと成長の支援、問題の把握）
→e-ポートフォリオに記入、教員への報告
→学生には「面談同意書」に記入してもらう

22